

景気動向調査報告書

令和5年10月末調査

この調査は、岡谷市の基幹産業である製造6業種（精密、機械、電気、計量、表面処理、
鋳造）の企業の皆様のご協力により、今期（令和5年10月末）を基準とした業況等につい
てまとめた報告書です。

岡谷市産業振興部工業振興課・岡谷商工会議所

- 調査実施期間

前年同期	前 期	今 期	来 期
令和4年10月	令和5年4月	令和5年10月	令和6年4月

- 調査業種及び調査企業

(件数)

調査業種	精密	機械	電気	計量	表面処理	鋳造	合計
調査企業数	40	27	11	7	12	3	100
回答企業数	40	27	11	7	12	3	100

- 従業員数

人数	0～9人	10～19人	20～29人	30～39人	40～49人	50～99人	100人～	合計
企業数	30社	14社	9社	7社	14社	16社	10社	100社

令和5年10月景気動向 調査結果のポイント

○ 今期の本市製造業の業況DIは、海外経済の業況、生産調整の影響を受けるとともに、引き続き多くの業種で受注が低調であることから、悪化に転じる企業が増加し、3期連続でマイナス水準となりました。

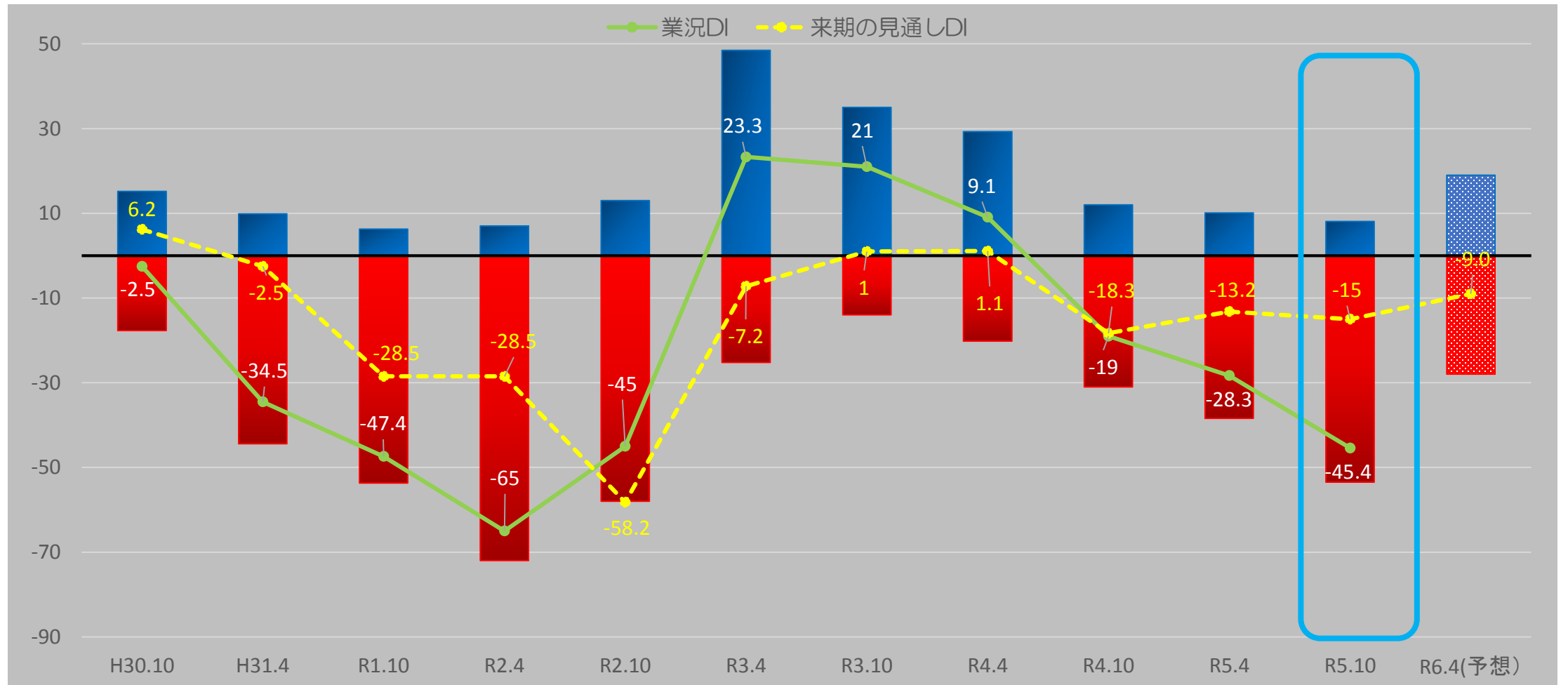
他方、来期の見通しについては、業況DIは依然としてマイナス水準ではあるものの、自動車関連分野では生産の回復の兆しを見込むなど、受注・操業はプラスに転じることが期待されています。

○ 収益DIは5期連続でマイナス水準で推移しており、受注の減少と昨今のエネルギー価格・物価の高騰が経営に対して影響を与えているものと考えられます。

○ 「生産・売上・受注伸び悩み」、「原材料価格高騰」、「人手不足・求人難」は継続して問題とする企業が多く、これらの課題解決に向けた対応が求められています。その他、インボイス制度への対応、出退勤・給与等管理などバックオフィス業務でのデジタル化の動きが多くみられるとともに、生産管理やAI・IOTの活用などデジタル化への意識が高まってきていることがわかりました。

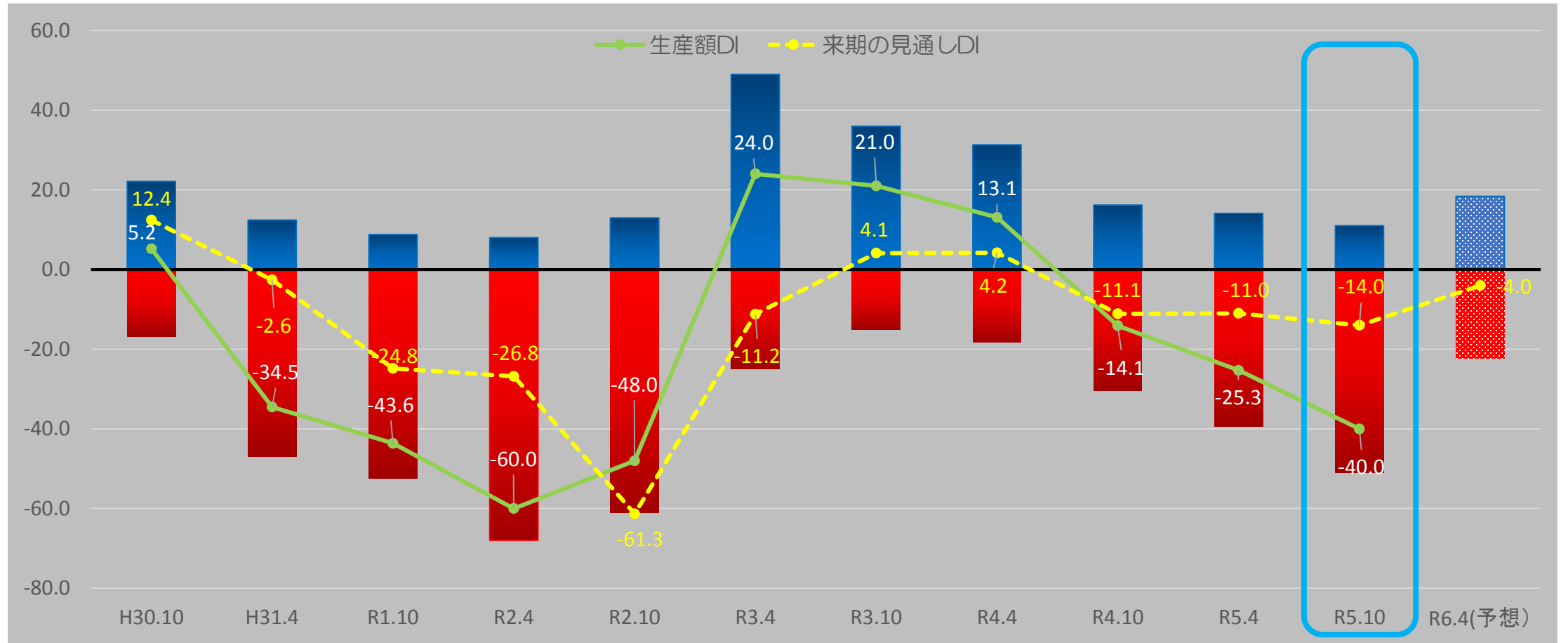
※棒グラフのプラス側は好転(増加、上昇、余裕)の企業の割合、マイナス側は悪化(減少、低下、窮屈)の企業の割合です。折れ線グラフ(DI)は好転(増加、上昇、余裕)の企業の割合から悪化(減少、低下、窮屈)の企業の割合を引いた差です。折れ線グラフ(来期の見通し)は調査時の来期(6ヵ月後)のDI値です。

①業況DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



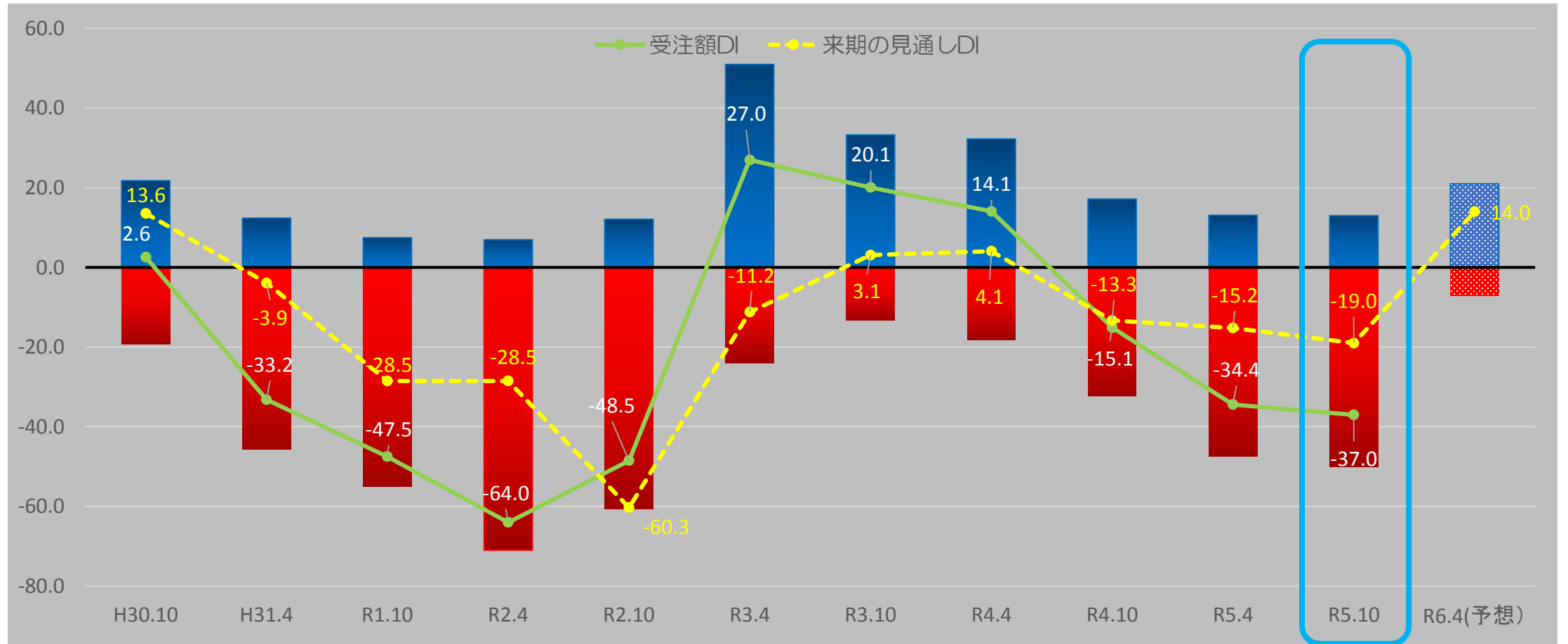
前期と比較したDIは、▲45.4ポイントとなり、前期の▲28.3ポイントより17.1ポイント悪化しました。また、来期の見通しDIは、▲9.0ポイントとなり、前期の▲15.0ポイントより6.0ポイント改善しました。

②生産額DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



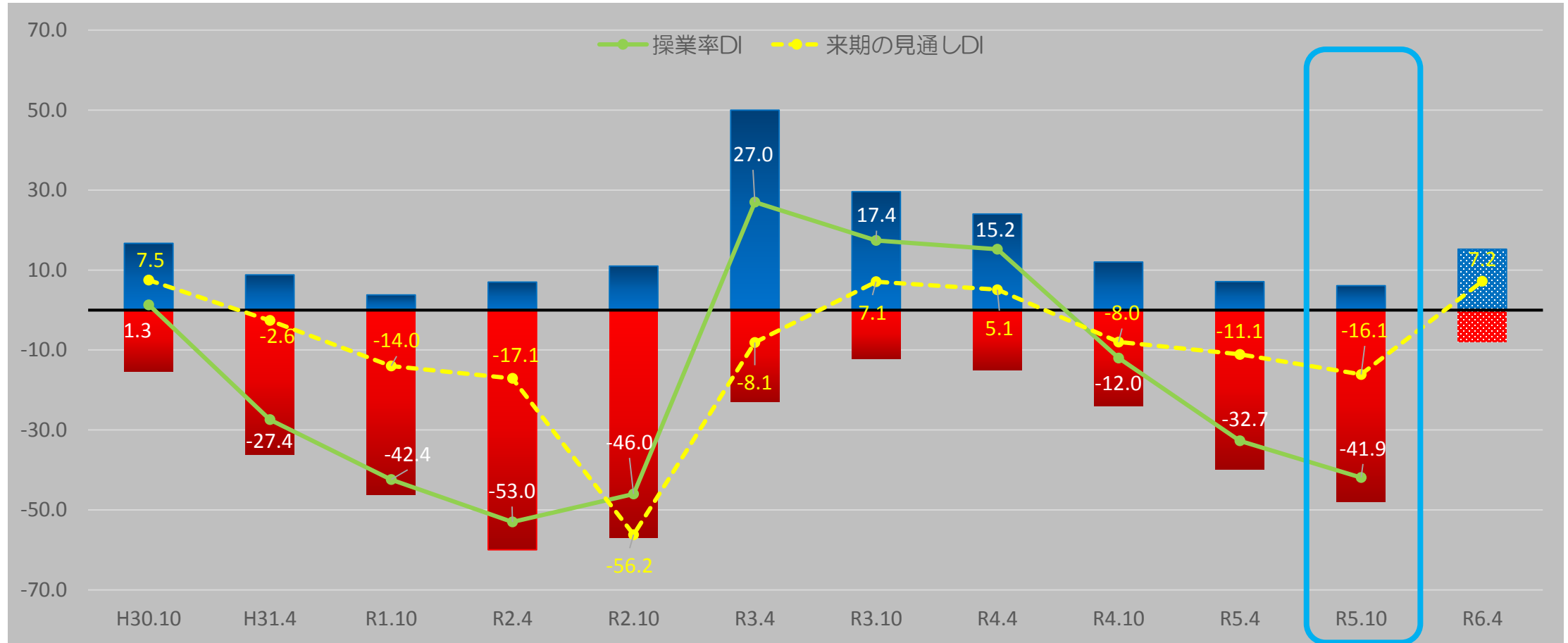
前期と比較したDIは、前期の▲25.3ポイントより14.7ポイント悪化し、▲40.0ポイントとなりました。
また、来期の見通しDIは、前期の▲14.0ポイントから10.0ポイント改善し、▲4.0ポイントとなりました。

③受注額DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



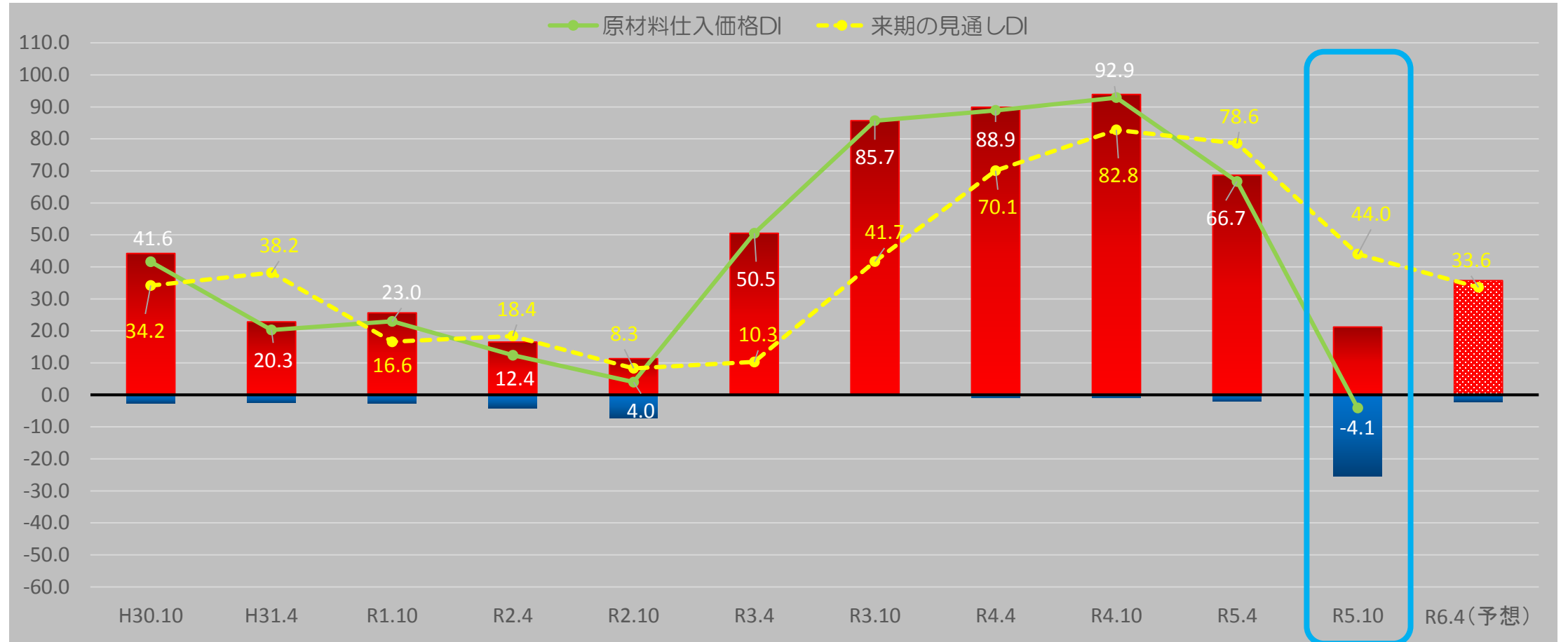
前期と比較したDIは、前期の▲34.4ポイントより2.6ポイント悪化し、▲37.0ポイントとなりました。
 また、来期の見通しDIは、前期の▲19.0ポイントより33.0ポイント改善し、14.0ポイントとなりました。

④ 操業率DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



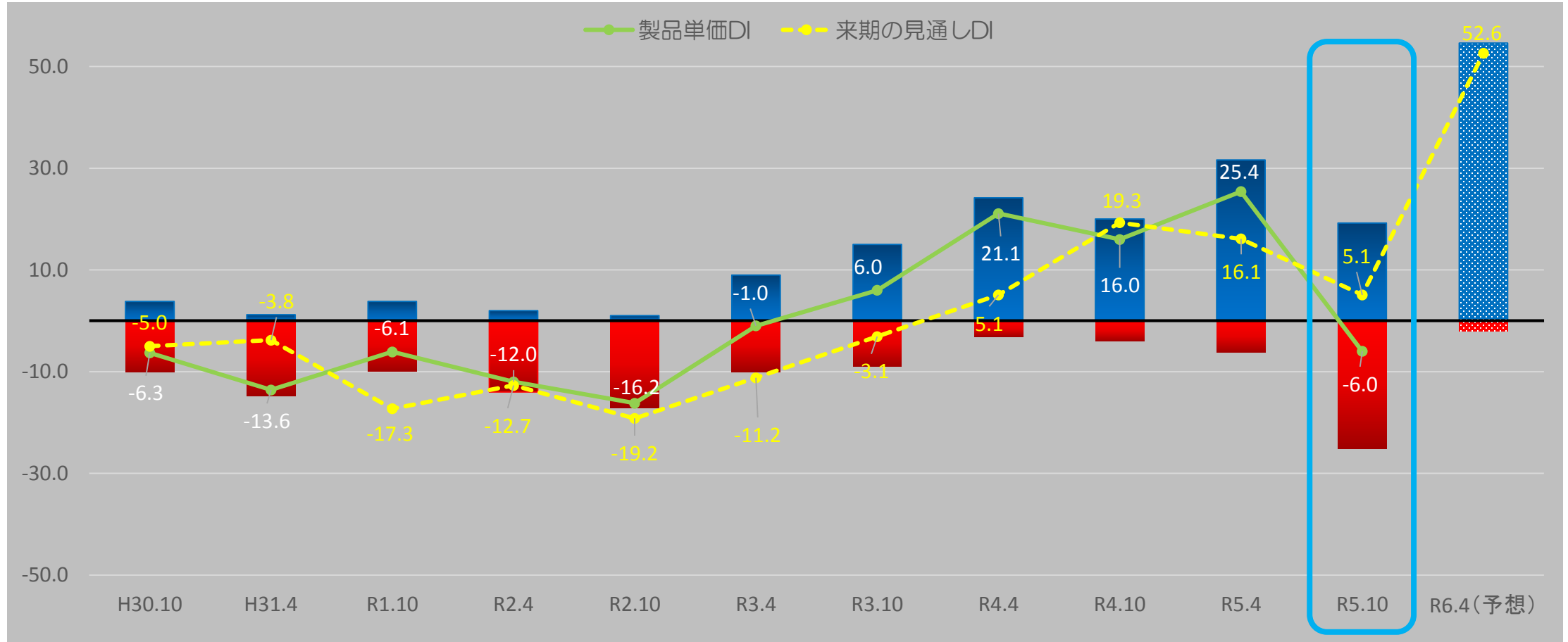
前期と比較したDIは、前期の▲32.7ポイントより9.2ポイント悪化し、▲41.9ポイントとなりました。また、来期の見通しDIは、前期の▲16.1ポイントより23.3ポイント改善し、7.2ポイントとなりました。

⑤原材料仕入価格DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



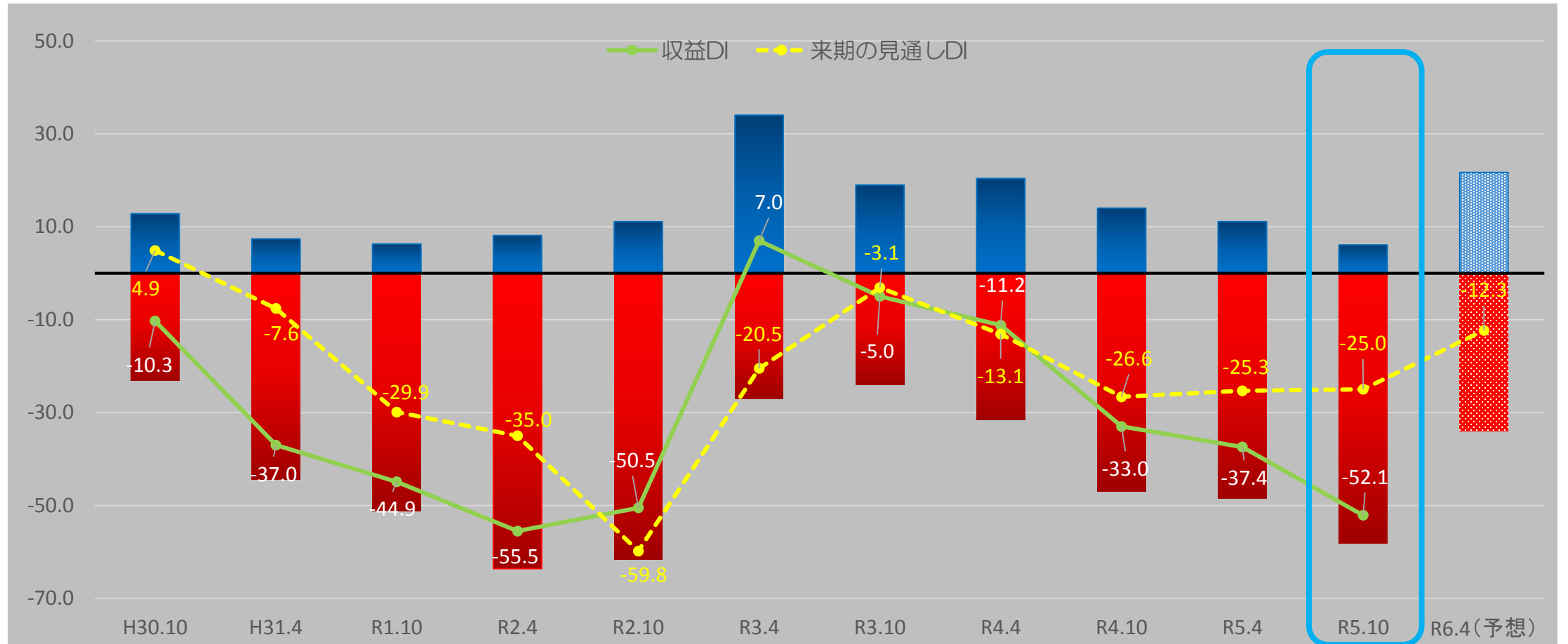
前期と比較したDIは、前期の66.7ポイントより70.8ポイント低下し、▲4.1ポイントとなりました。
 また、来期の見通しDIは、前期の44.0ポイントより10.4ポイント低下し、33.6ポイントとなりました。

⑥製品単価DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



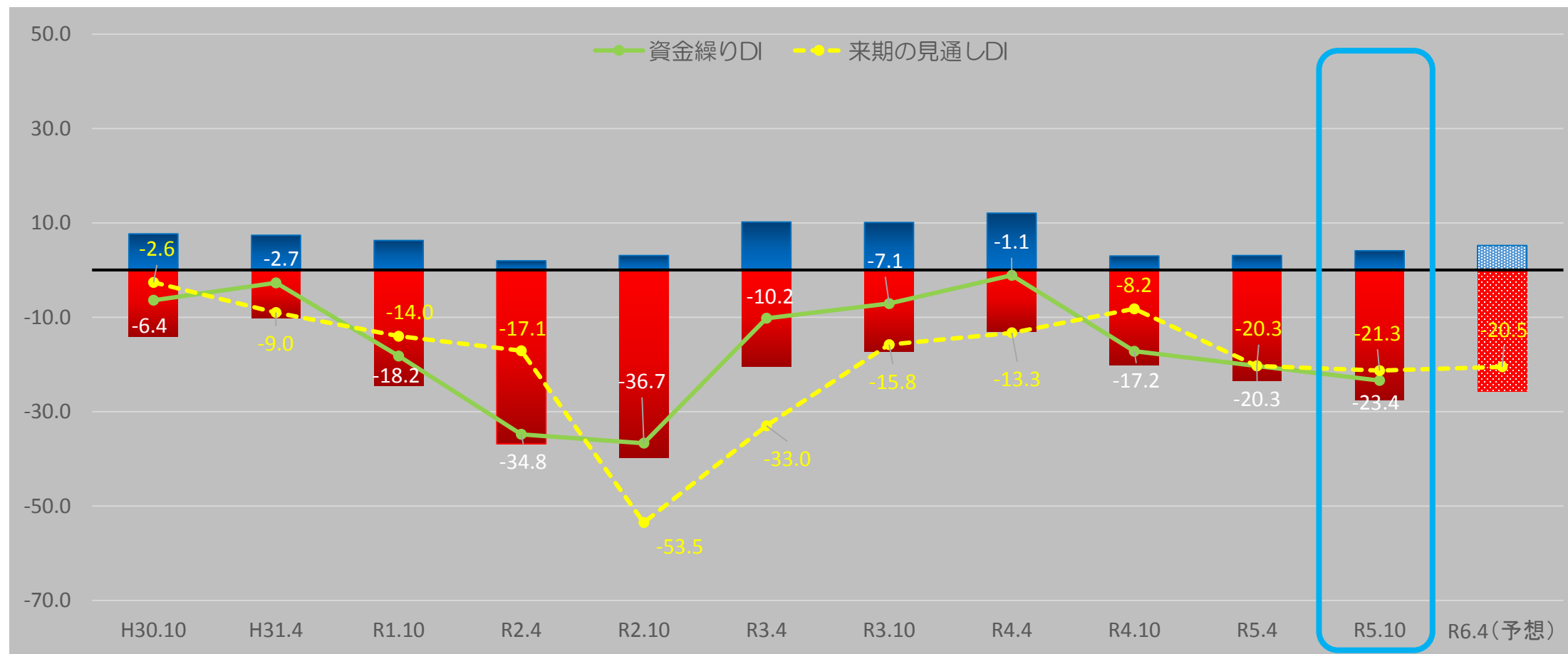
前期と比較したDIは、前期の25.4ポイントより31.4ポイント低下し、▲6.0ポイントとなりました。また、来期の見通しDIは、前期の5.1ポイントより47.5ポイント上昇し、52.6ポイントとなりました。

⑦収益DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



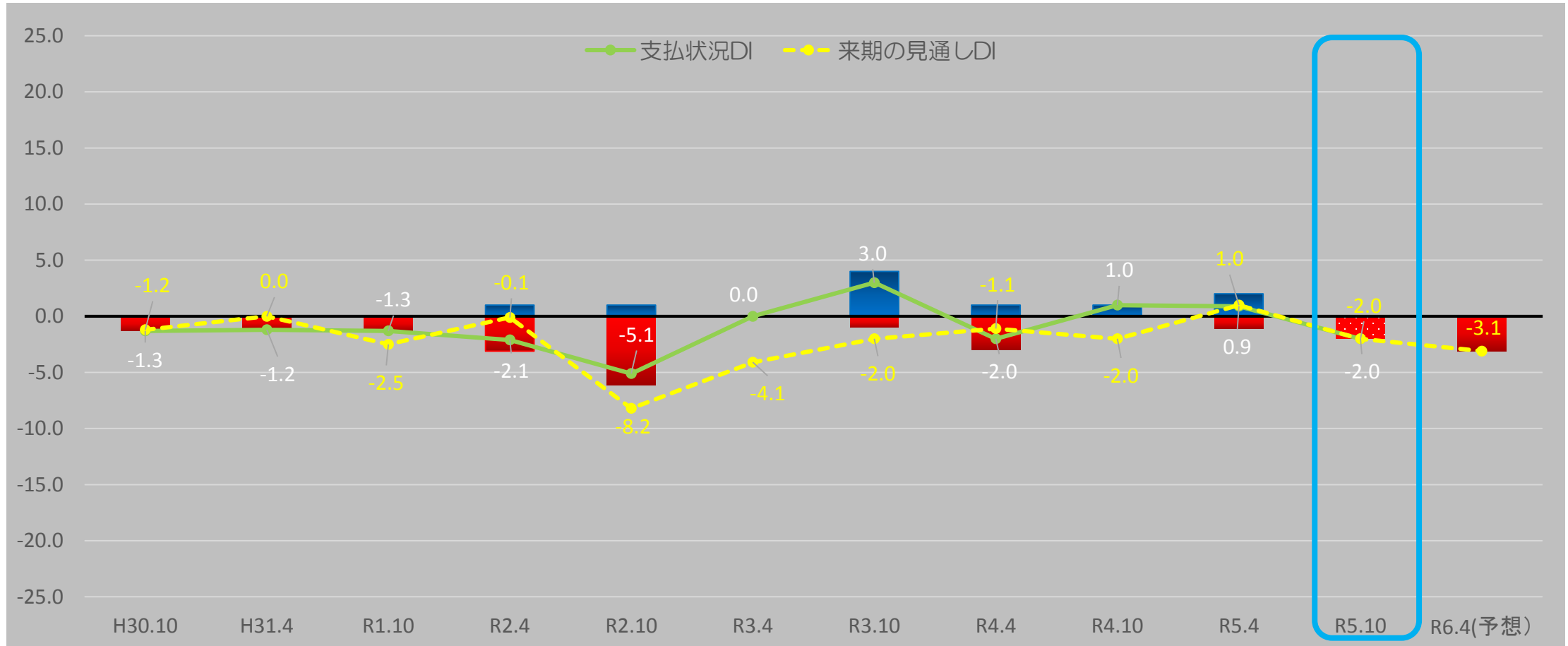
前期と比較したDIは、前期の▲37.4ポイントより14.7ポイント悪化し、▲52.1ポイントとなりました。
 また、来期の見通しDIは、前期の▲25.0ポイントより12.7ポイント改善し、▲12.3ポイントとなりました。

⑧資金繰りDI【前期(6ヶ月前)に比べて】



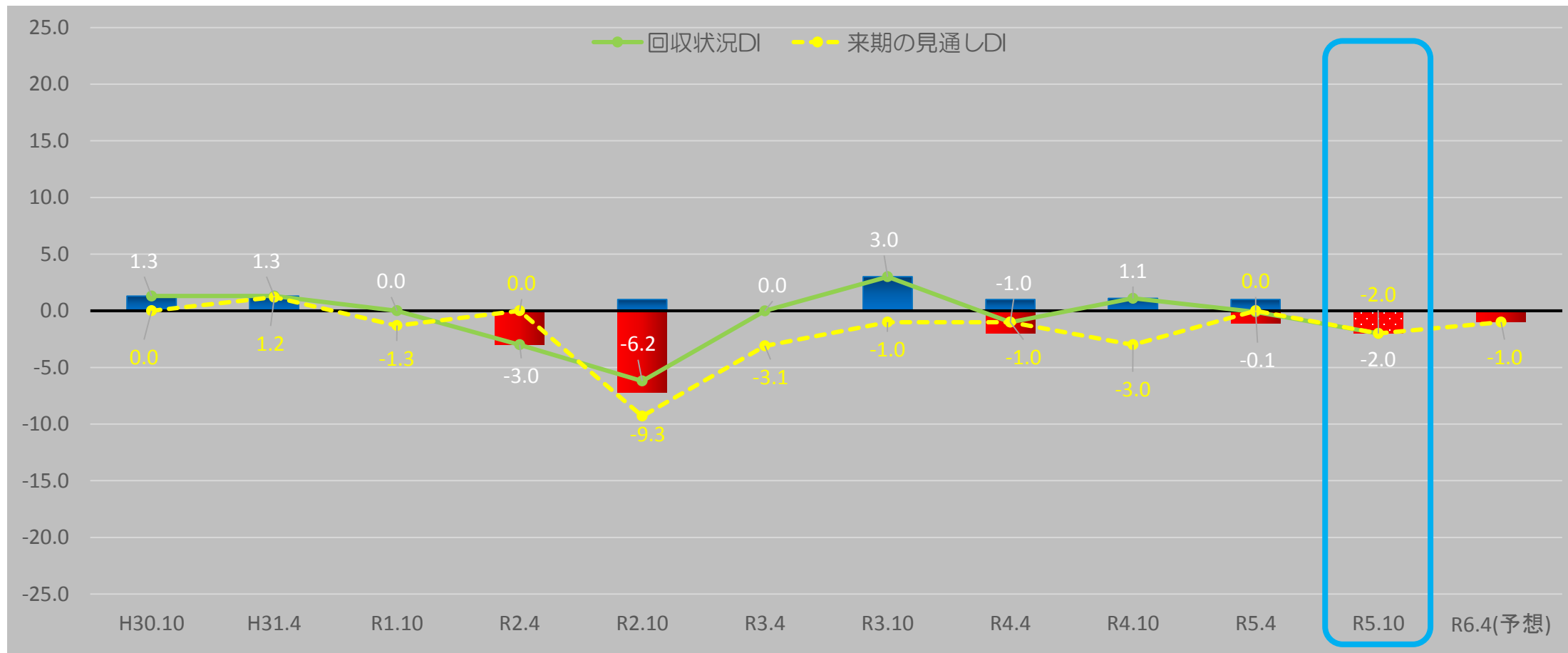
前期と比較したDIは、前期の▲20.3ポイントより3.1ポイント悪化し、▲23.4ポイントとなりました。
 また、来期の見通しDIは、前期の▲21.3ポイントより0.8ポイント改善し、▲20.5ポイントとなりました。

⑨支払状況DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



前期と比較したDIは、前期の0.9ポイントより2.9ポイント悪化し、▲2.0ポイントとなりました。
 また、来期の見通しDIは、前期の▲2.0ポイントより1.1ポイント悪化し、▲3.1ポイントとなりました。

⑩回収状況DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



前期と比較したDIは、前期の▲0.1ポイントより1.9ポイント悪化し▲2.0ポイントとなりました。
 また、来期の見通しDIは、前期の▲2.0ポイントより1.0ポイント改善し、▲1.0ポイントとなりました。

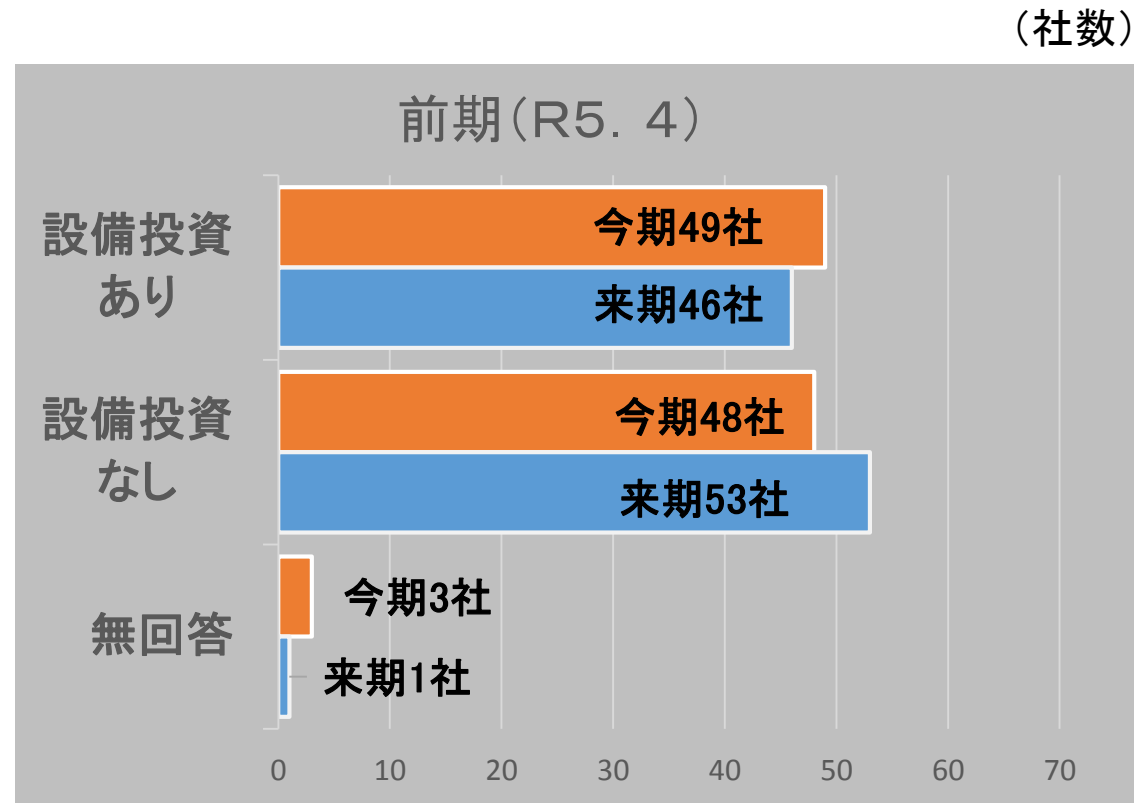
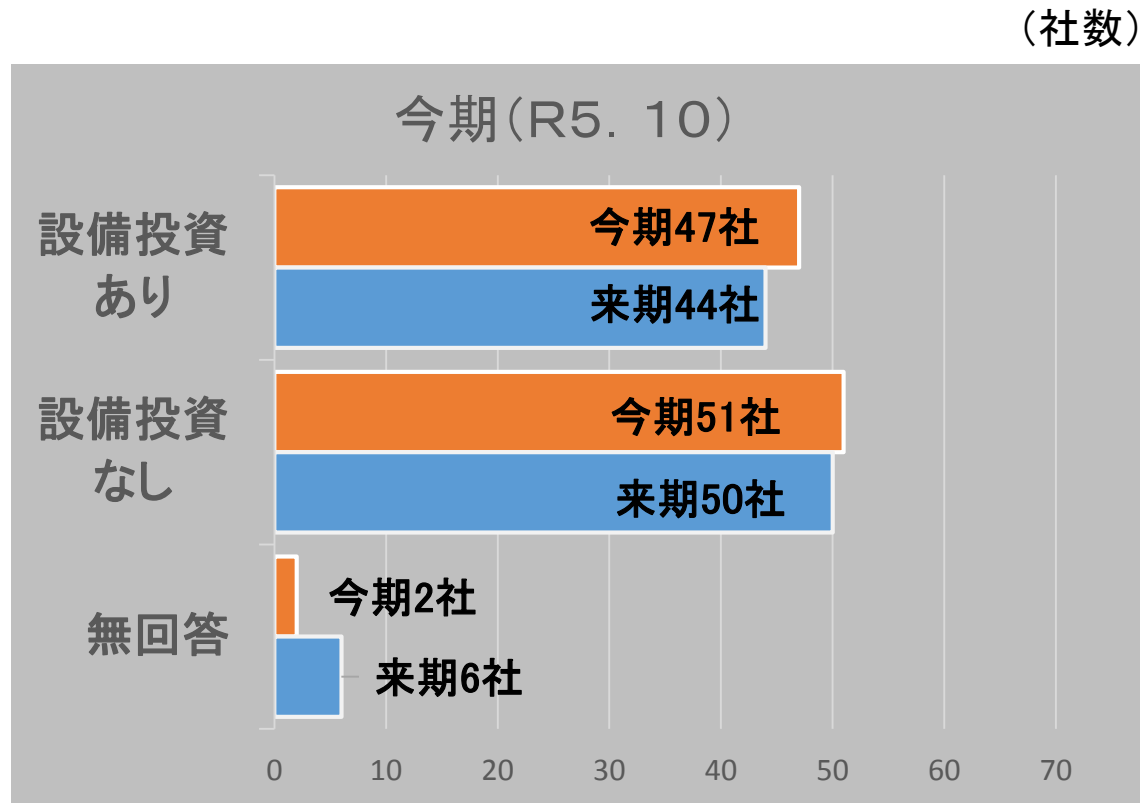
⑪ 今期の業種別業況DI

	精密	機械	電気	計量	表面処理	鋳造
前期に比して	▲40.0	▲59.3	▲18.2	▲50.0	▲75.0	33.3
前年同期に比して	▲42.5	▲55.6	▲18.2	▲57.1	▲66.7	33.3

⑫設備投資について

調査企業数: 100社

・設備投資の状況について



設備投資を行っている(計画している)と回答した企業が今期47社で、前期49社より減少しており、来期に設備投資を行う予定の企業は44社で、前期46社より減少しています。

⑭経営上の問題点(複数回答あり)

調査企業数:100社

項目	回答数	順位	項目	回答数	順位
生産・売上・受注の伸び悩み	66社	①	デジタル化への取組	10社	⑨
原材料の価格上昇	49社	②	労務管理	10社	⑨
人手不足、求人難	35社	③	新分野進出等新規事業展開	8社	⑪
人材育成	34社	④	労働環境の改善	6社	⑫
製品、加工賃の料金安	30社	⑤	土地の狭小	5社	⑬
価格転嫁	26社	⑥	作業スペース不足	5社	⑬
経費の悪化	22社	⑦	後継者の不在	3社	⑮
設備の狭小、老朽化	18社	⑧			

令和3年度以降「生産・売上・受注の伸び悩み」、「原材料の価格高騰」、「人手不足、求人難」は継続して経営上の問題としている企業が多く、これら課題への解決が求められている状況です。また、「経費の悪化」については昨今の原油価格・物価高騰等が背景にあり、設備投資への影響も推察され「設備の狭小、老朽化」への対応についても課題とされています。

⑮ デジタル化の取組状況

調査企業数：100社

項目	令和5年度 取組済み又は取組予定	令和6年度 取組予定
出退勤、給与等管理のシステム化	40社	9社
インボイス制度への対応	67社	4社
生産管理、在庫管理のシステム化	42社	12社
AI・IOT機器の導入による社内連携	17社	17社
IT人材の確保、採用	8社	13社
社員向け研修(外部研修・専門家派遣)	15社	14社
タブレット端末等の活用	16社	14社

令和5年度はインボイス制度への対応としてデジタル化を図る企業が多く、そのほか、バックオフィス業務や生産管理システムなどの活用により人手不足への対応や生産性の向上に向けた取り組みが進んでいます。令和6年度についても、引き続き各項目の取組が予定されており、デジタル化への設備投資への意欲が見られます。